【「日刊工業新聞」掲載のお知らせ 】

2021年10月29日の日刊工業新聞にて「SPK新たな変革に挑戦、モビリティビジネスのグローバル総合商社へ」の記事が掲載されましたのでお知らせいたします。

日刊工業新聞
THE NIKKAN KOGYO SHIMBUN
10月29日金曜日
2021年（令和3年）

SPK

新たな変革に挑戦
モビリティビジネスのグローバル総合商社へ

日本のトップランナー企業

1917年の創立から100年を超える歴史と伝統を持つ自動車部品・用品、産業用車両部品の専門商社、SPKが今大きく変わろうとしている。同社は「部品商社からモビリティービジネスのグローバル総合商社へ」向けた長期ビジョンを定め、4月により具体的な方針を示した新三カ年計画をスタートさせた。「100年に一度」と言われる大変革の時代を迎えている自動車業界だが、同社が主戦場とするアフターマーケット市場でその変革の波をどう乗り切るのか、正念場に立ち向かおうとしている。

急がれる脱炭素車への対応

長期ビジョンは「VISION2030」モデルのアイデアを全社員から募集したところ、「なんと新入社員から超ベテラン社員にイメージを示した。そ至るまで60通を超えるれによると、中核の補修部品ビジネスは脱炭素一部社長はその時の驚き方をうれしそうに話す。「私自身気付かなかったアイデアも多々あり、SPKの中に流れる『進取の気性』にあらためて胸を打たれた。ビジョンの内容にもこれらのアイデアが取り入れられている。

このビジョン策定に当たり、同社が目指す

◀沖恭一郎社長

バックボーンに近江商人の精神

同社はもともと伊藤忠商事の機械部からわかれ、その系列会社として大阪で最初の外車・部品の販売を行ったことから、「大阪自動車」を起立したのが始まり。今も伊藤忠商事をはじめ、多くの企業の感謝理念の根幹に取り入れられている近江商人の「三方よし」「世間よし」の精神をバックボーンとして大切に継承している。その進化の力が今また問われている。

長期ビジョンの中に国連の持続可能な開発目標（SDGs）の対応も含まれる。すでにその第一歩としてそな銀行のSDGs私募債の発行を行ったほか、この10月には自動車部品を供給する営業所である近畿営業所の建屋を新築、完成する。屋根に配置してソーラーパネルを設置し、電力エネルギーを最小限に抑える工夫を随所に盛り込んだ。営業車両は国内EV（電気自動車）などのクリーンエネルギー車両への入れ替えを進める。扱う商品についても、オイル・ケミカル類からプラスチックボトルを廃絶する試みが動きだしている。

DX推進でユーザーの満足度向上へ

過去から進めている「LAUNCH FOR THE FUTURE（未来への発進）」も、昨年11月に米国でノースイースト・インポーテッドパツ（NEIP）社がグループに加わり、同社の海外売高は8になった。SPK（推進）をうたい、新入事業部屋を導入しているほか、特に情報分野における進化を目指す「DXデジタルトランスフォーメーション」を進プロジェクトを発足させている。

▲ VISION2030 中期経営計画

めじろ押しの改革 新事業にも注力

この7月には自動車のコーティングなどのサービスを行う「カービューティープロ」のM&Aを行い、新規事業として今後グループのシナジーを追求していく。さらに10月には自動車のアフター市場に向け現行の自社ブランドに加えて、世界共通の上位ブランド「OSPEK PREMIUM」の商品第一弾商品を販売、順次品ぞろえを充実していく。このほか新三カ年計画には、物流拠点の再編、本社の新築・移転などを盛り込んだ。2022年3月期に連結売上高550億円（21年3月期は419億円）の強気の目標を掲げ、改革がめじろ押しだ。

SPK Sincerity Passion Kindness SPK株式会社
〒553-0003 大阪市福島区福島5丁目5-4 TEL：06-6454-2531 FAX：06-6454-2494
https://www.spk.co.jp/

※ 本記事は本サイトにのみ掲載が承認されています。
複写（転用・転載）はご遠慮下さい。

【ニュースリリースに関するお問い合わせ先】
ＳＰＫ株式会社　ＩＲ・広報室
〒553-0003
大阪市福島区福島5丁目5-4
TEL 06-6454-2578
FAX 06-6454-2494
kouhou@spk.co.jp